

俺色に染めたゼファー 楽しさに満ちたダート

関さんのバイクライフは、免許取得可能な年齢に到達してからすぐさまスタートし、現在30年を迎える。パツソルやDT50から始まったバイク歴は当初はむしろヤマハ党。かつてはRZ250でカッ飛ば青春時代を過ごしてきた。

そんな関さんがカワサキ車に乗るようになるキッカケとなったのが、92年のゼファー1100のデビューだ。

「最初にゼファー1100を目にしたとき『あ、これだー』と思いました。どうしてもこれに乗りたくなっちゃったんです」

そう話す関さんは、ゼファー1100を手にするため、それまで考えもしなかったという限定解除に挑戦



↑ツーリングに持ち出すデジタルカメラの条件は乾電池式と、逆手で操作する際にホールドできるグリップ。近ごろはそういう機種が少ないと嘆く



↑格安のデジタルビデオカメラにて車載動画を楽しむ。「万一、落としちゃっても後悔しないくらいの値段ですからね(笑)」道具は使ってナンボが関さん流

見事にそれを成し遂げた。

「そりゃもう、うれしかったですよ。欲しくて欲しくて手に入れたバイクですから。でも正直、重いし遅いし止まらない。これじゃ三重苦かも」と思ったんですけれどね(苦笑)」

あこがれのバイクを手に入れた関さん。それは同時に、はてしないカスタムのスタートでもあった。

デカイ、重いが第一印象だったというゼファー1100。2ストローク育ちの関さんが、それを自分好みのバイクに変えていく過程は、徹底的なカスタマイズと走り込みの繰り返しだった。

「カスタマイズといっても、ほれ込んだバイクらしさはなくしたくありませんでしたから、ゼファー1100の雰囲気を中心に、けれどやっぱりゼファーはカスタムしてナンボだと思いつつ、大胆に進めてきました」

キャブレターをFCRに交換したリオイル冷却の強化、サブフレームを加えた車体まわりといった定番カスタムに加えて、関さんのゼファーで特徴的なのは足まわりへの徹底したこだわりだ。「リヤサスはオーリンズに変更して、さらにホイールをダイマグに交換し

ています。とくにダイマグを入れたときには、車体の押し引きが見違えるくらい軽くなりました。走り込みながらバランスを取っていますから、操縦性に違和感はありませんし、切り返しも段違いに軽やか。いいことづくめですよ」

フロントフォークは純正ながら、オーリンズのスプリングに変更し、インナーチューブにはチタンコートをはどこす。さらにフォークスタビライザーも追加している。そして、セレクトされているタイヤは、ミシュランのパワーピュアだ。並外れた軽量構造がウリのハイグリップタイヤであるパワーピュアは、スーパースポーツ車ユーザーに人気だが、それをゼファー1100という重量車に履かせているあたりに、関さんのこだわりが強く感じられる。

「絶対的に重いバイクであることは変わりませんが、一連のカスタムで、走りは本当に軽快になりました」

カスタムのためのカスタムではない、自分らしい走りを楽しむためのカスタム。それが関さん流。その愛車ゼファー1100は、まぎれもない関さん色に染め抜かれた1台といえるだろう。

こうしてゼファー1100の魅力にどっぷりと浸かっていった関さん。現在では、インターネット上のオーナースコミュニティZEPの輪を

立ち上げ、全国の仲間と交流を深めている。

「ネットがありがたいと思うのは、ツーリング先でZEPの輪の仲間と会えたときのうれしさですね。四国などへツーリングに出かけたとき、現地の仲間と会えたときは本当に楽しかったです」

関さんが主催するZEPの輪では、こうしたオーナー同士のつながりをベースに、カスタムやツーリングに関する情報交換がひんぱんに行なわれている。全国規模でのイベント開催も盛んだ。

「ゼファーに乗るようになって、そしてZEPの輪で仲間が増えて、全国各地を巡る楽しみが増えました。イベントも定期的に開催していて、それも楽しみなんですが、イベント以外でも、とにかく休みのたびにどこかへ走りに行くのがすっかり習慣になってしまいましたね」

以前の愛車RZ250でもツーリングを楽しんではいたものの、ゼファー1100とそれを巡る仲間たちのおかげで、それこそ輪をかけたような旅ライダーとなった関さん。沖縄と北海道を除く全県を制覇したところで、いよいよ北海道へ！と思いついたのが97年のことだ。

「初めて走る北海道は、何もかもが最高でした。一度走れば...と思っていた北海道でしたが、すっかりハマってしまっって、毎年欠かさず通う

ゼファーで広がった仲間の輪が 旅ライダーの素質を開花させる



→写真左からKDX220SR、KLX250、ゼファー1100。基本的にノーマルのオフロードバイク2台に対して、フルカスタムがほどこされたゼファー1100が好対照だ